

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和5年 2月 19日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	八鍬聖

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)																																																																																																			
鹿児島県、屋久島																																																																																																			
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)																																																																																																			
野外生物学実習 B																																																																																																			
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)																																																																																																			
令和5年1月28日 ~ 令和5年2月3日 (7日間)																																																																																																			
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)																																																																																																			
京都大学野生動物研究センター附属 屋久島観察所、杉浦 秀樹准教授、三谷 曜子教授、鈴木 崇文氏																																																																																																			
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)																																																																																																			
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。																																																																																																			
野外において主体的にフィールドワークを行うことを通じた、基礎的な野外調査の技術の習得を目的として、屋久島にて7日間の実習を行った。本実習では、ニホンザルの亜種であり、屋久島にのみ生息するヤクザルと、屋久島沿岸を泳ぐザトウクジラの2種を主に観察した。																																																																																																			
スケジュール 1/28(土): 屋久島に到着、いくつかの地点でザトウクジラの観察。 1/29(日): A地点でザトウクジラの観察。その後、ヤクザルの群れを観察、個体識別。 1/30(月): A地点、B地点、C地点でザトウクジラの観察。 1/31(火): A地点でザトウクジラの観察。その後、ヤクザルの個体識別 2/1(水): D地点でザトウクジラの観察。その前後でヤクザルの搜索をしたものの、発見できず。 2/2(木): ヤクザルの個体識別 2/3(金): 観察所の掃除、撤収。																																																																																																			
<b>ザトウクジラの観察</b> 本実習では、三谷先生、李さんご指導のもと、ザトウクジラをいくつかの地点から双眼鏡を用いて観察することができた。観察地点の詳細の記述は控えるが、いずれも見晴らしがよく、海はかなり広い範囲を見渡せる場所であった。また、各観察地点で海や視界の状態を記録した。記録した項目はCloud(空全体を100とした時の雲の量が20%未満だとB、20~80%だとBC、80%より大きいとCと記録)、Wind(風の強さ)、Glare(水面に反射する太陽光の面積)、Visibility(水平線がどれほどはっきり見えるか)、Sightability(全体の見やすさ)の5項目であった。本実習の期間で様々なクジラの行動を観察することができ、Blow(潮吹き)、Body(体を海上に見せる)、Dive(潜水)、Fluke up(尾ひれの裏側が見えるほど、尾ひれを上げてのDive)、Breach(大きなジャンプをして着水)、Pec slap(胸びれを水面に叩きつける)、Tail slap(尾ひれを水面に叩きつける)が見られた。各地点でのクジラの観察記録を以下の表にまとめた。表1と表2で、同じ列の日時、時刻、場所是对応している。																																																																																																			
表1 観察時刻と地点、観察できた個体数、天候(Session1では天候を記録していない)																																																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">Session</th> <th rowspan="2">Date</th> <th colspan="3">Time</th> <th rowspan="2">Elevation</th> <th rowspan="2">Group</th> <th rowspan="2">Individuals</th> <th colspan="5">Weather report</th> </tr> <tr> <th>Start</th> <th>Finish</th> <th>Place</th> <th>Cloud</th> <th>Wind</th> <th>Glare</th> <th>Visibility</th> <th>Sightability</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1/29/2023</td> <td>9:32:00 AM</td> <td>10:25:00 AM</td> <td>A地点</td> <td>138</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1/30/2023</td> <td>8:44:00 AM</td> <td>10:15:00 AM</td> <td>A地点</td> <td>138</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>C</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1/30/2023</td> <td>1:10:00 PM</td> <td>2:10:00 PM</td> <td>B地点</td> <td>49</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>BC</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1/30/2023</td> <td>2:41:00 PM</td> <td>4:17:00 PM</td> <td>C地点</td> <td>31</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>BC</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1/31/2023</td> <td>8:29:00 AM</td> <td>10:39:00 AM</td> <td>A地点</td> <td>138</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>BC</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>2/1/2023</td> <td>12:40:00 PM</td> <td>3:00:00 PM</td> <td>D地点</td> <td>69</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>C</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	Session	Date	Time			Elevation	Group	Individuals	Weather report					Start	Finish	Place	Cloud	Wind	Glare	Visibility	Sightability	1	1/29/2023	9:32:00 AM	10:25:00 AM	A地点	138	1	5	-	-	-	-	-	2	1/30/2023	8:44:00 AM	10:15:00 AM	A地点	138	1	5	C	5	2	2	2	3	1/30/2023	1:10:00 PM	2:10:00 PM	B地点	49	1	2	BC	3	4	3	2	4	1/30/2023	2:41:00 PM	4:17:00 PM	C地点	31	1	2	BC	3	4	3	2	5	1/31/2023	8:29:00 AM	10:39:00 AM	A地点	138	1	2	BC	3	2	4	4	6	2/1/2023	12:40:00 PM	3:00:00 PM	D地点	69	1	2	C	5	2	3	2
Session			Date	Time					Elevation	Group	Individuals	Weather report																																																																																							
	Start	Finish		Place	Cloud	Wind	Glare	Visibility				Sightability																																																																																							
1	1/29/2023	9:32:00 AM	10:25:00 AM	A地点	138	1	5	-	-	-	-	-																																																																																							
2	1/30/2023	8:44:00 AM	10:15:00 AM	A地点	138	1	5	C	5	2	2	2																																																																																							
3	1/30/2023	1:10:00 PM	2:10:00 PM	B地点	49	1	2	BC	3	4	3	2																																																																																							
4	1/30/2023	2:41:00 PM	4:17:00 PM	C地点	31	1	2	BC	3	4	3	2																																																																																							
5	1/31/2023	8:29:00 AM	10:39:00 AM	A地点	138	1	2	BC	3	2	4	4																																																																																							
6	2/1/2023	12:40:00 PM	3:00:00 PM	D地点	69	1	2	C	5	2	3	2																																																																																							

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

表 2 観察時刻と記録した行動

Session	Date	Time			Behavior					
		Start	Finish	Place	Blow	Body	Dive(fluke up)	Breach	Pec slap	Tail slap
1	1/29/2023	9:32:00 AM	10:25:00 AM	A地点	○	○	○			○
2	1/30/2023	8:44:00 AM	10:15:00 AM	A地点	○	○	○fluke up		○	
3	1/30/2023	1:10:00 PM	2:10:00 PM	B地点	○					
4	1/30/2023	2:41:00 PM	4:17:00 PM	C地点	○	○	○fluke up	○	○	
5	1/31/2023	8:29:00 AM	10:39:00 AM	A地点	○	○	○fluke up	○		
6	2/1/2023	12:40:00 PM	3:00:00 PM	D地点	○	○	○fluke up		○	

本実習では、クジラの観察を試みた日には毎回クジラを観察することができ、非常に恵まれていた。もちろん私はクジラの種を同定できる知識は何も持っていないのだが、観察できたクジラはザトウクジラであることを三谷先生や李さんが教えてくださった。いずれの日にも観察できたのは1群であったが、1度クジラのBlowを見つけると、その後非常に長い時間クジラの姿を追えることに驚いた。私の記録している限りだと、Session2, 4, 5においては約1時間クジラの姿を追うことができた。その間、Blowは3~5分間隔で繰り返されるが多かった。また、表1, 2より、観察地点の天候条件とクジラの取る行動には強い関係はないと考えられるが、データも多くないため断定できるほどではない。Session3の際にはクジラの姿を目視でもはっきり認識できるほどクジラが岸に近づいていたため、より迫力を感じることができた。表2にあるように、Session3ではBreachやPec slapを観察できたのだが、豪快な水飛沫や、はっきりと聞こえる水面を叩く音を前にすると、「すごい」という感想しか出てこなかった。そもそも実習が始まるまでは、陸地から双眼鏡でクジラを観察できるというのも少し疑っていたのであり、まさか目視でも見られるなんて思ってもいなかった。また、最初にBlowを発見するのは、ほとんど三谷先生か李さんであり、お二人の観察力と双眼鏡を覗き続ける忍耐力にはただただ敬服するばかりであり、これもフィールドワークにおける非常に重要なスキルだと感じた。

ヤクザルの個体識別

本実習ではヤクザルの個体識別も行った。まず、1/29に西部林道の逆S字状になっている地点(緯度30.3189, 経度130.3990付近)で、ヤクザルの群れを発見した。一見1つの群れのようにも見えるが、2つの群れが100mほどの距離感で牽制しているようにも見受けられた。少しするとどちらの群れも山の中へ入っていったため、片方の群れを追ったものの途中で引き返した。便宜的に、東側にいた群れをA群、西側にいた群れをB群とした。1/31の搜索において、1/29で群れを観察した地点の近くでヤクザルの群れを発見し、これがA群であることが分かった。個体識別を開始したものの、顔にある程度目立つ特徴を持つ個体は何頭か識別することができたが、そうではない個体の識別はかなり難しかった。杉浦先生や鈴木さんは、手や足の指が曲がらないといった、顔の特徴ではないポイントからも個体識別をしていたが、私にとっては言われてみれば気づくようなものが多く、たくさんの個体を識別することはできなかった。幸島での実習では、あらかじめ個体識別されている個体を観察していたが、何も情報のない群れを一から観察するのは非常に労力を要するということが分かった。2/2には、A群、B群どちらも観察することができた。私は、群れの外側の4, 5頭で固まっていたオスの個体識別をした。その中でも常に同じ2頭でグルー

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

ミングをしている2,3歳のオスがいたのだが、かなり長い時間観察しても個体を識別できるほどに至らなかった。何か特徴を見つけたと思っても数分後にはわからなくなってしまうことの繰り返しであり、個体識別に関しても、クジラの観察と同じく観察力と忍耐力が非常に重要であることが分かった。最終的には、全員の観察結果を合わせると、A群13頭、B群17頭を識別することができた。辛抱強く群れを探し歩き回り、かなり集中して観察するので体に疲れは溜まったが、非常に充実した経験であった。また、実習前に比べると、小さな違いに気づくという観察力は身についたように感じる。

今回の実習で、初めて屋久島を訪れたが、どこにいても見える綺麗な海や目まぐるしく変わる天気、道路に図々しく居座るヤクザル、その間を慎重に通り抜けていく乗用車(たまに猛スピードで駆けていく車もいたが)、何をとっても新鮮な1週間であった。野生動物を観察する大変さもしっかりと味わったが、それ以上に楽しく、充足感に満ちていた。



図1 スマホのカメラでも捉えられたザトウクジラ(一部)



図2 ガードレール上で佇むヤクザル

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

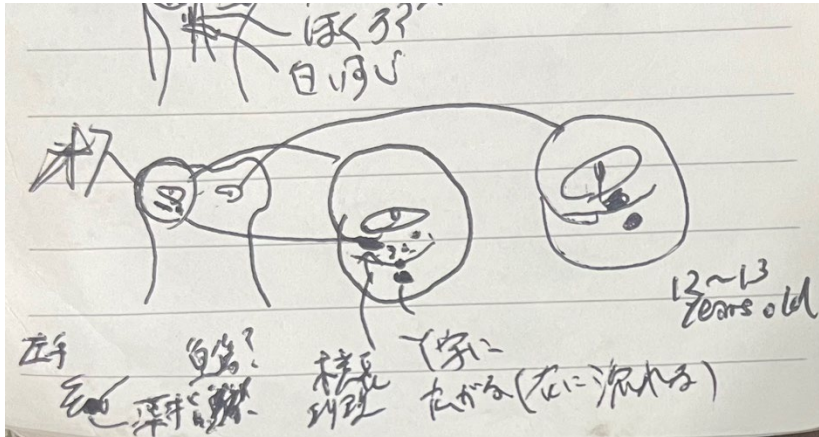


図3 とったメモ



図4 図3でメモしている個体(鈴木さん撮影)

6. その他 (特記事項など)

本実習の実施にあたって、実習内容を考案し、引率、指導をして下さった杉浦先生、三谷先生、鈴木さんには大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。